OiBokkeShi×三重県文化会館 「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクト

2017年度 活動報告

超高齢社会を豊かに生きる

三重県文化会館では、2017年より、岡山で介護に演技を取り入れたワークショップや、高齢者とともに演劇をつくる活動を行っている俳優・介護福祉士の菅原直樹さんをお迎えし、3年間のアートプロジェクトを実施しています。

2017年前期は「介護を楽しむ」をテーマに、県内の介護施設や病院、介護福祉コースのある大学、介護家族の会等、10か所でワークショップを開催。後期は、30代~90代の参加者が集まり、演劇を通して、もう一つのテーマ「明るく老いる」について考えるワークショップ「老いのリハーサル」を3回シリーズで行いました。

なぜ三重県文化会館がこの事業を行うの?

一般的に、劇場は「音楽や演劇といった舞台芸術のイベントを行う場所」というイメージが強いのではないでしょうか。 しかし、劇場の役割はそれだけではありません。貧困・障害等、様々な理由で社会的に孤立や困難を抱えている方々に対して、ア ートの力で問題を解決する手助けをし、豊かな生活を楽しんでいただく「社会包摂」という大切な機能があります。

三重県文化会館では、この社会包摂の一環として、2017年度より、介護・福祉の現場に演劇の手法を取り入れた取り組みに挑戦しています。

講師紹介

<u>一一</u> 菅原直樹氏(奈義町アート・デザイン・ディレクター)

「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰。俳優、介護福祉士。 平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2012 年より、家族と共に岡山に移住。介護と演劇の相性の良さを実感し、地域における介護と演劇のあり方を模索している。OiBokkeShi の活動に密着したドキュメンタリー番組「よみちにひはくれない~若き"俳優介護士"の挑戦~」(岡山放送 OHK)が第 24 回 FNS ドキュメンタリー大賞で優秀賞を受賞。2017 年には、その活動が NHK「こころの時代」にも取り上げられる。

○活動内容

介護を楽しむ

「介護に寄り添う演技」体験講座

遊びを通してリハビリを行う「遊びリテーション」や、認知症の人とのコミュニケーションを考えるロールプレイングなど、介護に演技の手法を取り入れることで、介護する側もされる側も、お互いがもっと楽に気持ちよく過ごせる、ちょっとした気づきを得る体験講座です。

【プログラム内容】

①遊びリテーション~老いを受け入れるヒントは遊びにある!?~

遊びリテーションとは、認知症の人や障がいを持ったお年寄りに「遊び」を通じてリハビリをしてもらう方法論です。身体を使った遊びは演劇の原点です。「できる」「できない」にこだわらず、「できない」ことすら楽しむ、遊びの価値観を介護現場に持ち込みましょう。

②認知症の人とのコミュニケーションを考える~認知症の人の言動を正すのではなく、演技で自然に受け止めよう!~ 《認知症の人を囲んで》5人一組で雑談をしてもらい、その中の1人に「認知症の人」役になってもらいます。「認知症の人」に は、演劇の台本を渡し、周りが雑談をしているときに好きなタイミングで台本に書かれている台詞を発してもらいます。周りがそ の脈絡のない言葉に対してどのような態度をとるかによって、認知症の人の気持ちを体感してもらいます。

《イエスアンドゲーム》介護士の食事の声かけに対して、食事に行きたがらず「田植えする」と言う認知症の人。参加者に「介護士」役と「認知症の人」役を交互に演じてもらい、認知症の人の言動を受け入れるコミュニケーションを体験してもらいます。

こういったシアターゲームを通じて、認知症にはどういった中核症状があり、BPSD(行動心理症状)が生じるメカニズムについて解説します。

③ショートストーリーをつくる~介護職員は老人の人生を紐解き、個性を引き出す演出家!~

②の発展形。それぞれ人生にまつわるアンケートに答えて、皆のエピソードをもとに認知症になった「わたし」とその周りの人々が登場する介護現場の 1 シーンを創作します。

■5月24日(水曜日)13時30分~16時30分

特定医療法人暲純会 武内病院

対象:看護師の皆さん16名(30代~50代/全員女性)

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える/ショートストーリーをつくる

		1					Q	2					3			(4	4)
	介	護従事年	数			身内の介護経験						認知	印症関連	資格		研修経験	
1年未満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以上	1年未満		あり 3~5年 未満	5~10 年未満	10年以上	なし	認定看護師	認知症 ケア指 導管理 士	認知症 ケア専 門士	ケアマ ネー ジャー	その他	あり	なし
0	0	0	3	13	1	4	0	1	0	10	0	0	0	1	0	12	3

※④研修経験ありと答えた方の回答…認知症高齢者の看護実践に必要な知識(看護協会)、三重県看護大学地域交流センター、認知症ケア看護師養成研修

- ⑤普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・話をよく聴く。何かの行動には意味があるとよく考える。
- ・軽く肩や腕など触れて、タッチングを含めてコミュニケーションをはかる。フルネームで自己紹介をする。
- ・しっかりした目を見て、ゆっくり話、患者が理解したのを確認してからケア介入する。残存機能を大切にする為できることできないことの観察をしっかりし、できないことは無理強いしない。
- ⑥どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・認知症患者、介護を必要としている人の気持ちを理解する。
- ・認知症ケアの院内研修を企画するため参考にしたかった。
- ・頭で分かっていても、実際上手にできないように感じ、実践を学びたいと思い受講した。
- ⑦講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・これまでは座学での講座であったが、今回は実際に認知症患者になりきり演じることで認知症患者の気持ちに寄り添い理解が少しでもできたような気持ちになった。
- ・実際、自分自身が認知症者になることで、受け入れられない孤独感、悄愴感などが体験できた。
- ・否定はしないように、と心がけていましたが肯定するのも難しかったです。ウソつきと患者様に言われる…という思いもあります。でも否定されることで患者さんが淋しく応じるのは事実なので、今後のケアに活かしていきたいと思いました。

《プログラム別の評価》

	遊びリテーション											
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性											
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった			
7	7 9 0 0 0 2 8 6 0 0											

【プログラムとしての面白さ】

- ・どの程度の認知症なのかの目安にもなり、又軽い運動ができて、良いと思う。
- ・認知症というより高齢者のリハビリ体験として、スタッフ同士のコミュニケーションとしてもおもしろいと思った。
- ・先生も話しておられましたが「幼稚なこと」という先入観がありましたが自分達が実際に行ってみて楽しく盛り上がり遊びリテーションに対する見方がかわりました。

- ・病院で治療を受ける患者には難しいところがあると思うが、エッセンスとして取り入れる事は出来ると思うし、療養病棟などでは、とても有用だと思う。
- ・役立つと考えられる。なごやかな状況から自然と信頼関係も構築されていく。
- ・入院患者は殆どが全介助を要し、ADL 低下があり現場では役立つか否か分からない。

		認知	症の人	とのコミュ	ニケーシ	ョンを考え	える						
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性												
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった				
10	10 6 0 0 0 10 5 0 0 0												

【プログラムとしての面白さ】

- ・BPSD はかかわり方によって軽減できるということを体験できた。
- ・認知症の人の気持ち、介護者側の気持ち、両方を感じることが出来て、とても良かった。
- ・「正すこと」「受け入れること」共に難しく、「受け入れる」ことは嘘をつくことでもあり、その場をのりきることができても どこまで嘘をついていけば良いかを考える。

【現場での有用性】

- ・役立つと考えられる。言葉や行動を多角的にとらえ、考えられる。受け答えができる。
- ・体験することで知識が裏付けられたような気がするので、今後に活かせそう。
- ・まだ実践していないが、研修内容にとり入れると効果的だと感じた。このプログラムならば全ての看護職員が達成可能である。

			ショ	ートストー	-リーをつ	くる							
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性												
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった				
8	7	1	0	0	6	8	1	0	0				

【プログラムとしての面白さ】

- ・患者(認知症者)、家族、友人又介護者のそれぞれの立場から患者の人生とりまく環境が想像できて納得。また新たな発見もあった。
- ・自身のショートストーリーを考える中でも、少しウルウルしたり、楽しく思い出したり考えたりと、"老い"について考える機会になったようにも思います。
- ・個々の生活歴や価値感を大切にすること、そのため、それらの情報収集が看護職として大切なことがよくわかった。

- ・実際の看護でもよくある場面だったので、対処方法として参考になった。
- ・その人の行動の深い所を組み取ることやその背景にあるものなどを読み取っていかなければならないとあらためて思うことができた。
- ・演習では自分達で考えてストーリーを作ったが、実際患者様は昔のことを思い出し生活しており、否定するのではなく患者様が なぜこのような言動があるか?行動されるのか?考えて関わっていきたいです。

■6月30日(金曜日)13時~14時30分、16時20分~17時50分 高田短期大学 キャリア育成学科 介護福祉コース

対象:2年生15名(うち2名は台湾とネパールの留学生含む)

※アンケート回答者 うち13名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える/ショートストーリーをつくる

		(D			(2
		身内のか	个護経験			研修	経験
		あり					
1年未満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以 上	なし	あり	なし
1	1	1	0	0	10	9	4

※②研修経験ありと答えた方の回答…大学での実習

- ③普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・傾聴する。・笑顔。・否定しない。
- ④どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・認知症ケアのスキルアップのため。
- ・接し方の選択肢が増えると思って。
- ・認知症の方とのコミュニケーションがより良くなるように。
- ⑤講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・認知症に対するこわばった考え方が軽くなった。・気持ちが明るくなれた。

《プログラム別の評価》 ※全員学生のため、現場での有用性については、「どちらともいえない」の回答が多かった。

				遊びリテ	・一ション							
プログラムとしての面白さ 現場での有用性												
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった			
4	4 9 0 0 0 2 6 5 0 0											

【プログラムとしての面白さ】

・まさかあんな白熱するとは思わなかった。・体や脳を動かし、皆で楽しむことができた。

【現場での有用性】

・楽しいと思う。場が盛り上がりそう。・できる人とできない人がいそう。

		認知	1症の人	とのコミュ	ニケーシ	ョンを考え	える				
プログラムとしての面白さ現場での有用性											
大変良 かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった		
3	8	2	0	0	2	8	3	0	0		

			ショ	ートストー	-リーをつ	くる						
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性											
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった			
2	8	3	0	0	2	5	6	0	0			

【プログラムとしての面白さ】

・色んな人の人生がわかった。・自分の思い描いたストーリーと違ったおもしろさがあった。

■7月19日(水曜日)13時~15時30分

認知症家族の会 家族介護教室(会場:四日市なやプラザ)

対象:認知症の方のご家族14名 ※アンケート回答者:うち3名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える

			(2		
	身内	の介護網		研修	経験	
		あり				
1年未満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以 上	あり	なし
1	1	0	1	0	2	1

※②研修経験ありと答えた方の回答…認知症サポーター養成講座、ヘルパー研修、移乗研修

- ③普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・いつも笑顔でいる。
- ・その人に合あわせた用事をしてもらう。
- ④どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・以前 TV で菅原さんのことを知り、素晴らしい取り組みで興味がありました。
- ・認知症の人にどのような対応をしたらよいか知りたくて。
- ⑤講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・今まで体験したことのないワークショップで楽しかったのと、介護 = 演劇が結びつき、今後の対応にとても役に立つと思いました。
- ・認知症の人の言葉に耳を傾けるよう、気を付けたいと思いました。

《プログラム別の評価》

				遊びリテ	ーション								
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性												
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった				
2	2 1 0 0 0 1 2 0 0 0												

【プログラムとしての面白さ】

・頭の体操になり、知らない人でも気軽に参加できて良かった。

【現場での有用性】

・認知症の人に対して気長にそして柔軟な頭でいたいです。

	認知症の人とのコミュニケーションを考える											
プログラムとしての面白さ 現場での有用性												
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった			
2	2 0 1 0 0 1 1 1 0 0											

【プログラムとしての面白さ】

・受け入れながら介護者の思うようにお年寄りに動いていただく難しさを感じました。

【現場での有用性】

・介護をしていく上で役に立ちましたが、若年性の場合、急に怒り出したりするため、どうしたらよいか分からない時があります。

■7月20日(木曜日)16時~18時

県立一志病院

対象:看護師、看護助手、保健師の方や近隣住民の皆さん 25 名 (20 代~60 代)

※アンケート回答者: うち 23 名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える

		(D					2			(3
		身内のか	个護経験				認知	印症関連	資格		研修	経験
	1 + 1 1 - 3 + 3 - 3 + 3 - 10 10 + M -						認知症	認知症	ケアマ			
1年未 満					なし	認定看 護師	ケア指 導管理 士	ケア専門士	ネージャー	その他	あり	なし
2	3	2	0	0	13	0	0	0	1	2	13	7

※②認知症関連資格のその他…認知症サポーター

※③研修経験ありと答えた方の回答…大学内での講義・演習、認知症ケア、ユマニチュード入門、認知ケア加算研修、認知症専門 医による座学

- ④普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・本人が言っている事を否定しない。話に相槌を打つ。笑顔で目を見て話をする。手をにぎる。
- ・介入拒否があっても、しばらく時間をあけて関わると、受け入れてもらえる事も多く、同じ接し方でも時間やタイミング、場所 をかえてみると良い事がある。
- ・一旦受け入れながら、目的の事へ絡めていく。もしくは、がらっと話をかえてみる。
- ⑤どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・認知症の介護に正解はなく、日々困惑している。多くの知識を吸収し介護に生かしたい。
- ・認知症の理解を深めたい。ロールプレイがあるとの事で役になりきって、立場を少しでも理解出来ればという思いがありました。また、介入方法の手助けになればとも考えていました。
- ・高齢の患者が多い中、よりよい医療を提供したいと思い参加させていただいた。
- ⑥講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・発想力をもってやりとりを一緒に楽しむことの大切さ。
- ・否定しないという考えはもっていたが、その理由について考え直す機会になった。

《プログラム別の評価》

" / - /	, , —,,,	1 • > н нш/	/						
				遊びリテ	ーション				
	プログラ	ムとしての	の面白さ			現場	での有月	月性	
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立った	どちら ともい えない	あまり 役に立 <i>た</i> な	役に立 たな かった
11	10	0	0	0	4	10	4	0	0

【プログラムとしての面白さ】

- ・ゲームを行う事で緊張がほぐれてコミュニケーションもとることができて良かったと思います。
- ・予知せぬ行動を素早くよみをとって次の行動に移していく事が大切である事がわかった。
- ・知らない人とも話をすることができた。

- ・相手の先にまわるということは、危険など察知できるのではないかと思えた。転倒転落の予知となる。
- ・楽しい和やかな雰囲気になると考える。環境づくりは必要かと思う。
- ・役立つと思います。自分の精神衛生を保つためにも。

		認知	1症の人	とのコミュ	ニケーシ	ョンを考え	える					
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性											
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立った	どちら ともい えない	あまり 役に立 <i>た</i> な	役に立 たな かった			
8	12	0	0	0	4	10	2	0	0			

【プログラムとしての面白さ】

- ・テンポよくプログラムが進み時間を忘れた。
- ・否定するのは簡単なこと、肯定する必要性の意味を実際患者役をして、わかった気がする。
- ・感情に寄り添う事の難しさを痛感するが、自然の形が良いのではと思った。

- ・認知症の人の記憶は薄れていっても感情はそのままで否定されたら悲しいし認めてもらえれば嬉しいと言う事を再認識しました。
- ・否定と肯定の差について体験しながら学ぶことができ、根拠をもってケアを行うことができると思ったため。
- ・スタッフ全員の足並みを揃えることが、なかなか難しいと考える。それぞれのやり方で対応することで混乱を招くことにはなるかと思った。個人的には有用性はある。

■8月29日(火曜日)13時30分~15時30分社会福祉法人敬愛会 特別養護老人ホーム慈宗院

対象: 同グループ内の障害者支援施設、救護施設も含めた職員の皆さん 25 名(20 代~60 代)

※アンケート回答者: うち 11 名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える

		1					(2			3		
	介	護従事年	.数				身内のか	个護経験			研修経験		
							あり						
1年未満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以上	1年未満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以 上	なし	あり	なし	
0	1	0	3	7	2	1	0	1	0	7	4	6	

※②研修経験ありと答えた方の回答…認知症研修、介護技術

- ④普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・相手の特徴を見極めて、その時の精神状態に合わせて接する。
- ・きつく否定しない。
- ⑤どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・「介護に寄り添う演技」のタイトルが気になった。
- ・色々なアプローチから学びたかった。
- ⑥講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・利用者さんについつい職員側の意見を押し通してしまいがちなので、すごくいい勉強になりました。
- ・受容がやはり一番大切であると再認識しました。

《プログラム別の評価》

				遊びリテ	・一ション				
	プログラ	ムとしての	の面白さ			現場	での有月	用性	
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立った	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった
6	5	0	0	0	2	4	3	0	0

- ・遊びを通して、介護のあり方がすごく伝わってきました。
- ・大人ばかりなので大きく動いたりはないかと思ったが、全員が楽しんでいる感じがあった。

【現場での有用性】

- ・身体番号(身体の部位に番号をふる遊びリテーション)は利用者さんと一緒に楽しめそう。
- ・共感できるところが多々あった。

		認知	症の人	とのコミュ	ニケーシ	ョンを考え	える		
	プログラ	ムとして(の面白さ			現場	での有月	用性	
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった
7	3	1	0	0	6	2	2	0	0

【プログラムとしての面白さ】

- ・肯定的にすることにより、幸せそうだった。
- ・自分が認知症の方を演じ、どう思ったか感想を述べたが、利用者さんにこんな思いをさせてしまっているんだなと苦しくなった。

- ・より意識的に利用者さんと関わることができそうな気がします。
- ・知的障害の施設職員なのでどこまで利用者に有効であるかはわからないが、どの現場においても受容することで利用者の気持ちは楽になるのではないかと思う。

■9月23日(土曜日) 10時~12時

みどりの丘カフェ(会場:フレンテみえ セミナー室 B)

対象:認知症カフェ参加者(認知症の方のご家族や介護関係者の皆さん)32名

※アンケート回答者:うち3名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える

		1			(2
	身内	の介護網	圣験		研修	経験
		あり				
1年未満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以 上	あり	なし
0	0	0	2	1	1	2

- ③普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・自然体で認知症の方の話を聞き、共感すること。
- ④どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・介護(認知症等)にかかわるボランティアをしてみたいと思い、知識を深めたいと受講しました。
- ⑤講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・演技の必要性がわかったと思う。

《プログラム別の評価》

				遊びリテ	・一ション				
	プログラ	ムとしての	の面白さ			現場	での有月	用性	
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった
2	1	0	0	0	1	2	0	0	0

【プログラムとしての面白さ】

・初めは緊張していましたが、スーッと入り込めました。

【現場での有用性】

・認知症の方との関わりの場で役立つと思う。

		認知	症の人	とのコミュ	ニケーシ	ョンを考え	える				
プログラムとしての面白さ 現場での有用性											
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった		
1	2	0	0	0	1	2	0	0	0		

【プログラムとしての面白さ】

認知症の人の役を演じることで否定・肯定された両方の場合の気持ちがわかった。

【現場での有用性】

つらい気持ちがわかってよかった。

■2月4日(日曜日)13時30分~15時30分

日本在宅医療学会 第3回地域フォーラム in 三重(会場:フレンテみえ セミナー室 A)

対象: 日本在宅医療学会参加者(医師、看護師、医療関係者)29名

※アンケート回答者: うち11名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える

		(D						2				(3
	身内の介護経験						認知症関連資格						研修経験	
1年未 満	1~3年 未満	あり 3~5年 未満	5~10 年未満	10年以上	なし	認知症 サポー ト医	認知症 学会専 門医	認定看護師	認知症 ケア指 導管理 十	認知症 ケア専 門士	ケアマ ネー ジャー	その他	あり	なし
1	1	1	1	0	6	1	0	0	0	1	1	2	5	5

※②認知症関連資格のその他…キャラバンメイト、OT

※③その他と答えた方の回答…認知症サポート医養成講座、キャラバンメイト上級講座

- ④普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・ユマニチュード
- ・相手の価値観を尊重して接する
- ⑤どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・老いと演劇というテーマに純粋に関心を持って、「~してはならない」「~すべき」といった、how to の関わりとは異なるものを期待して。
- ・人を理解するのに演劇を活用するということに興味をもった。看護の教育にも活用できるかを期待して。
- ⑥講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・今までにない感情の変化や、関わりしだいで、相手も自分も気持ちよく楽しくなるのが分かりました。
- ・ものの見え方が変わった。よく「BPSD の出ている方の気持ちを想像して関わる」とは言われるが、それがどのようなことかの想像が広がった。

《プログラム別の評価》

				遊びリテ	・一ション				
	プログラ	ムとしての	の面白さ			現場	での有月	用性	
大変良かった	よかっ た	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立った	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった
9	2	0	0	0	3	6	1	0	0

【プログラムとしての面白さ】

・間違っても良いという価値観

		認知	症の人	とのコミュ	ニケーシ	ョンを考え	える					
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性											
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立った	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった			
11	0	0	0	0	6	4	0	0	0			

【プログラムとしての面白さ】

自分の身におきかえて考えることができた。

■2月13日(火曜日)13時~15時

会場:高茶屋市民センター 主催:津市社会福祉協議会

対象:津市内のボランティア、いきいきサロン運営メンバー57名

※アンケート回答者: うち 46 名

/• / /	<u> </u>	нн	, , , , ,	П						
		(D					2		
		身内のか	个護経験					満足度		
		あり								
1年未 満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以 上	なし	大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった
7	4	6	7	5	11	18	24	4	0	0

- ③普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・相手を否定しない(でも身内の場合は難しい場合がある)。
- ・受け入れてうなずくことが大事、安心させる。
- ・笑顔で接する。 ・ゆっくり話しかける。
- ・家族との会話以上に他人との会話が有効だと感じているので、可能な限りは一緒に出掛けて色々な人と会い、話す機会を作っています。
- ④どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・介護施設への訪問が多いので、色々な場合での対応ができるように期待して。
- ・自分が誰かの役に立てればという思い。
- ・ボランティアの視野を広げたい
- ⑤講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・否定してはいけない旨がヒシヒシとわかった。肯定は難しいが、受け入れる努力をします。
- ・演劇を用いた手法は楽しいと思います。認知症の人への接し方の手法は拡がり、目から鱗です。老若男女が気負わずに認知症の方と接すること(きっかけ)ができると思います。
- ・よみちにひはくれない人生観(帰る夜道にはもう日も暮れる心配はない。腰を落ち着けてゆっくりと生きていこう)

■2月14日(水曜日)9時~12時

ふくし出前出張(会場:津商業高校) 主催:津市社会福祉協議会

対象:津商業高校1年生女子12名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える

	1	2							
	の人と接 -経験	満足度							
あり	なし	大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった			
(12	10	2	0	0	0			

- ③ワークショップに参加して、老いや認知症に対するイメージやご自身の思いに変化はありましたか。
- ・はじめは、(認知症に対して)介護や接し方が難しく、大変なイメージでした。

ワークショップのゲームに参加してその考え方が変わり、個性を大切にし、その人の考え方を受け入れてあげることが大切だと知ることができました。この活動はたくさんの人に知ってもらうべきだと思いました。

- ・私は老人ホームに行ったことがあって、その時に介護ををしている人が高齢者のボケにのって楽しそうに話しているのをみました。もし私が介護する側になったらどうすればいいのだろうと思っていました。ですが今日のワークショップに参加してそういうボケには一緒にのって話した方が良いんだということを学びました。
- ・認知症の人の話にあわせて話すのも結構楽しい事を知れてよかった。この機会がまたあったらいいなと思いました。
- ・お年寄りが俳優という発想が素晴らしいと思いました。認知症になった人に話は通じないイメージがありましたが、肯定することによってどちらもよい気分で話すことができるのだと感じました。
- ・演劇と介護を一緒にしていてすごいなと思ったし、新しいなと思った。
- ・認知症の方にあったり話したりする事がなかったので、あまり知識がなく、突然違う話をされたら「そうじゃない」と教えなければいけないと思っていましたが、自分が高齢者の方の立場に立つ事で必ずしもそれが正しいとは限らないと気づきました。演劇が役立ってくれてうれしいです。

見る・知る・感じる、認知症ケアの知恵ぶくろ

認知症サポーター養成講座、認知症カフェ、講演会といった多彩なプログラムを用意。今認知症に向き合っているご本人やご家族、介護職の皆さん、またこれから関わるであろう誰もが、1日を通して複合的に認知症について学べるイベントです。

・8月30日(水曜日)10時~17時

三重県総合文化センター内(大研修室・中研修室・レセプションルーム)

認知症サポーター養成講座 103 名

認知症カフェ 24 名

講演会(登壇者:三好春樹さん、多賀洋子さん)142 名

「老いと演劇のワークショップ」(講師:菅原直樹さん)29 名+見学者 25 名

計 323 名

登壇者紹介

三好春樹氏

1950年、広島県生まれ。特別養護老人ホームの生活指導員として勤務後、理学療法士となる。 1985年に「生活とリハビリ研究所」を設立。年間 200 回を超える講演活動と実技指導で、 現場に絶大な支持を得ている介護分野の第一人者。 主な著書に『関係障害論』『認知症介護』(雲母書房)『じいさん・ばあさんの愛しかた』(新潮文庫) 『なぜ、男は老いに弱いのか』(講談社文庫)『完全図解新しい介護』(講談社)など多数。

多賀洋子氏

1942年、京都市生まれ。2002年、夫の退職を期に三重県津市に移住。 このころから夫に認知症の症状があらわれ、9年にわたる介護を経験する。 現在は、介護相談ボランティアや講演活動に従事している。 主な著書に『ふたたびのゆりかご アルツハイマー型認知症の夫と笑い合う日々』(講談社) 『認知症介護に行き詰まる前に読む本「愛情を込めたウソ」で介護はラクになる』(講談社) 『認知症介護が楽になる本 介護職と家族が見つけた関わり方のコツ』※三好春樹さんとの共著(講談社)。

主催:三重県文化会館

三重県生涯学習センター

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

協力:公益社団法人認知症の人と家族の会 三重県支部

後援:三重県

■「老いと演劇のワークショップ」に関するアンケート結果 8月30日(水曜日)15時~17時(会場:レセプションルーム)

対象:公募の参加者 29 名(20代~80代)

※アンケート回答者: うち 22 名

プログラム内容:遊びリテーション/認知症の人とのコミュニケーションを考える

①						2					3	
身内の介護経験					認知症関連資格					研修経験		
あり					認知症							
1年未 満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~10 年未満	10年以 上	なし	認定看 護師	たア指導管理 士	認知症 ケア専 門士	ケアマ ネー ジャー	その他	あり	なし
2	4	1	2	1	11	0	1	0	0	6	12	9

※②認知症関連資格のその他…社会福祉士、介護福祉士、ヘルパー2級、準看護師、認知症サポーター ※③研修経験ありと答えた方の回答…三重県社協主催の研修、認知症レベルアップ講座

- ④普段認知症の人に接するうえで、ご自身が有効だと考え、実践していることがあればお教えください。
- ・無理強いはしない 焦らない。
- ・昔の話を聞く。
- ・笑顔。話をきく、転換する、自尊心を傷つけない。
- ⑤どのような目的でこの講座を受講されましたか。
- ・認知症の方におだやかに過ごしてもらえる演出。
- ・地域が認知症にやさしい地域になるためのヒントのようなものを得たいと思って参加しました。
- ・幸せでいられる介護のあり方を模索しています。菅原さんはETVでお話を聞き、感動しました。

- ⑥講座を受けてみて期待した効果があったと思われますか。
- ・老いることの文化、老いの豊かな文化とはある面肯定できるが、しかし老い方のへタな人も多い。もっとうまく老いたいと思う。
- ・コミュニケーションの大切さ、今を大切にする個人を尊重する介護の大切さを改めて感じた。

《プログラム別の評価》

遊びリテーション										
	プログラムとしての面白さ 現場での有用性									
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった	
12	6	0	0	0	7	6	2	0	0	

【プログラムとしての面白さ】

- ・できない人がいて場が盛り上がる。できないのがダメなのではない、楽しかった。
- ・心を動かすために、身体をつかうこと。

【現場での有用性】

- ・明日の集団体操に取り入れてみます。
- ・利用者様同士のコミュニケーションを取れるレクを提供したいと思いました。

	認知症の人とのコミュニケーションを考える											
		プログラ	ムとしての	の面白さ		現場での有用性						
大か	変良った	よかっ た	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった	大変役立った	役立っ た	どちら ともい えない	あまり 役に立 たな かった	役に立 たな かった		
	7	10	1	0	0	6	8	1	0	0		

【プログラムとしての面白さ】

- ・認知症に限らず、受け入れる姿勢の大切さ。コミュニケーションとして大切、説得よりも心地良さかな。
- ・即時の対応難しかったです。

【現場での有用性】

- ・その時その場で短時間でも笑顔になってもらえるようにしていきたい。
- ・難しいなあと思ったが、現場でもある場面なので生かせればよいと思った。

■その他のプログラムでのアンケートの声

- ・楽しみながら介護ができるような気持ちになりました。認知症の親と一緒に、親の人生の様々なステージを旅したいと思います。(講演)
- ・現実問題として身にせまって感動の話でした。人生のより深い時間のかかわりを考えることが出来、今日の内容は我が家族に持って帰って役に立てたいです。(講演)
- ・認知症との共生の基本は「愛」につきる。 (講演)
- ・認知症カフェは地域社会の人たちに認知症と認知症の人の気持ちを知ってもらうだけじゃなくて、家族介護専門職も支援上手、 支援され上手になれる可能性もあるのだと感じました。介護事業者主催の認知症カフェもやる意味があることを感じました。チャレンジしてみたい気持ちになれたサロンに参加できて本当に感謝いたします。(認知症カフェ)

明るく老いる

老いのリハーサル

まだまだ自分の老後が想像できないという世代も、老いに直面し様々な悩みを抱えている世代も、演劇を通して老いた自分をリハーサルすることで、不安を解消したり、老いに前向きになることができる3回シリーズの演劇ワークショップです。

第1回 2017年12月23日(土曜日) 三重県生涯学習センター3階スタジオ

第2回 2018年1月13日(土曜日) 三重県生涯学習センター3階スタジオ

第3回 2018年2月3日(土曜日) 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」2階セミナー室B

各回【A】13 時 00 分~15 時 30 分/ 【B】16 時 30 分~19 時 00 分

【A】 【B】あわせて 26 名(30代~80代)

※うちアンケート回答者:20名

【プログラム内容】

第1回〜2回…「介護に寄り添う演技」体験講座の【①遊びリテーション】【②認知症の人とのコミュニケーションを考える】 【③ショートストーリーを作る】を、じっくり体験・発表。

第3回…参加者に老いの良い所・困った所を書き出してもらい、よりよく老いるためのアイデア(商品や仕組み、イベント、場所等)を考える。それらのアイデアを企画書にして、それぞれのグループで30秒のCMを創作・発表。

《出てきたアイデア》

- ・どこでもマイカー
- ・メルシャンよみがえ~る
- ・ドラえもんドアカフェ
- ・老~いガチャルーム
- ・どん亀運動会
- ・スーパーアイ(愛)・かがやくメガネ!

《アンケート結果》

- ① どういった動機でワークショップに参加いただきましたか。
- ・身体の不調をよく感じるようになり、'老い'を実感し、暗くなりがちでしたが、「老い」をまたちがった見方でとらえられるのではないか。と希望をもって。「老い」を演劇にしていくということに興味があった。
- ・県のニュースペーパーをみて同じ職業の方がおもしろい事なさっているなと思っての参加。

2									
満足度									
大変良かった	よかった	ふつう	あまり 良くな かった	良くな かった					
15	5	0	0	0					

【理由】

- ・初対面同志の人たちと、寸劇などを通して心が通い合う様な空間を共有できたのが良かった。
- ・自分が自由な気持ちで、心から楽しいと感じる時間をもしかすると初めて味わったような気がしたから。
- ② ワークショップに参加して、老いに対するイメージやご自身の思いに変化はありましたか。
- ・誰もが居場所を求めていることに気づいた。老いて結構、老いましょうとメッセージを送り続けたい。
- ・老いとは、古くなった洋服みたいなもの。脱げる人は脱ぎ捨てたらい いんだ。年齢を聞いて、その年ではできないだろうとか勝手に思い込んだらダメ肉体は老いていっても、心の年齢はその人次第。だんだんと年を取っていくことが恐怖として感じていた私は、自分次第で心の老いは変えられる、楽しめるのかも!と思った。人間見えるもので(外見・肉体)判断しちゃダメだね。もっと内面を見る目を養いたいと思います。洋服は着替えることができるけど、心はそうはいかない。本当に見なきゃいけないものを惑わされずに見れるようになりたいと思います。
- ・老いを明るく前向きに伝える場やイベントを考えて CM をつくるという 3 回目の課題で、奇想天外であっても、ドラえもん的発想でまず考えてみることが必要だと思った。現実的ではないといったことで否定することが多いが、発想はまず自由に、それをどう実現するのかも自由に発想する。
- ・「老いる」ことは、嫌な事というイメージから「明るく老いる」というシフトチェンジが出来た。と同時に介護は大変というイメージからも「楽しむ」には何が出来るか?という探求の道筋が見えてきたような気がします。ありがとうございました。
- ・他の方の意見、ものの見方など少人数の中でわかりあえるチャンス。あるようで中々ないので、枠に縛られず、"遊びの中で"という事を知り、今後生かしていきたいです。共に遊んだ皆様に感謝です。先生ありがとうございます。
- ・楽しそうにしている先輩方を見るだけで、老い(=できなくなっていくこと)を怖がることないんだと勇気をもらえます。